

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 2 部門第 5 区分
【発行日】平成22年1月21日(2010.1.21)

【公表番号】特表2009-525909(P2009-525909A)
【公表日】平成21年7月16日(2009.7.16)
【年通号数】公開・登録公報2009-028
【出願番号】特願2008-553656(P2008-553656)
【国際特許分類】

B 6 0 R 22/12 (2006.01)

【F I】

B 6 0 R 22/12

【手続補正書】

【提出日】平成21年11月25日(2009.11.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ベルト舌部をバックルに接続するための接続板(10)と、
前記ベルト舌部に強固に接続されている舌部本体部(20)と、
曲げ縁部(32)を有する曲げ及び締め付け要素(30)とを備え、
前記曲げ及び締め付け要素(30)は、ベルトウェッジにおける力の値が予め定め
た力の値を超える場合に前記曲げ及び締め付け要素(30)が前記舌部本体部(20)に
関して回転するように、前記舌部本体部(20)上に取り付けられており、前記曲げ及び
締め付け要素が外面を有している、安全ベルト用ベルト舌部において、

前記曲げ及び締め付け要素が、前記外面を介して、前記舌部本体部において支持されて
いることを特徴とする安全ベルト用ベルト舌部。

【請求項 2】

前記曲げ及び締め付け要素が、前記曲げ及び締め付け要素の回転の中心となる回転軸線
が前記曲げ及び締め付け要素の外側にあるように、溝部の形状を有することを特徴とする
請求項 1 に記載の安全ベルト用ベルト舌部。

【請求項 3】

前記舌部本体部が 2 つの側アーム(26)を備えていることを特徴とする請求項 1 又は
2 に記載の安全ベルト用ベルト舌部。

【請求項 4】

前記側アームの各々は、前記曲げ及び締め付け要素を、軸線方向において位置決めする
ことを特徴とする請求項 3 に記載の安全ベルト用ベルト舌部。

【請求項 5】

補強バー(24)が、前記 2 つの側アームの間で延びており、前記曲げ及び締め付け要
素は、少なくとも、前記曲げ及び締め付け要素が回転させられた状態において、前記補強
バーと接触していることを特徴とする請求項 3 又は 4 に記載の安全ベルト用ベルト舌部。

【請求項 6】

前記舌部本体部において、力がかからない状態で、前記曲げ及び締め付け要素を拘束す
る、少なくとも一つの割れ固定部が設けられていることを特徴とする請求項 1 ～ 5 のい
ずれか 1 項に記載の安全ベルト用ベルト舌部。

【請求項 7】

前記舌部本体部において、力がかからない状態で、前記曲げ及び締め付け要素を拘束する、少なくとも一つの割れ固定部が設けられており、

前記割れ固定部は、前記側アームの領域に設けられていることを特徴とする請求項 3 又は 4 に記載の安全ベルト用ベルト舌部。

【請求項 8】

前記割れ固定部は、前記曲げ及び締め付け要素の凹所（36）内に軸線方向に延びている前記側アームにおいて、割れノーズ（28）を備えていることを特徴とする請求項 7 に記載の安全ベルト用ベルト舌部。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

曲げ及び締め付け要素 30 は、舌部本体部 20 の内面 20a 上に位置決めされており、曲げ及び締め付け要素 30 は、摺動面として機能している。曲げ及び締め付け要素 30 は、溝部としても形成されており、その凸状外面の半径は、舌部本体部 20 の内面 20a の半径に対応している。これは、特に図 2a 及び 2b においてよく理解されうる。曲げ及び締め付け要素 30 は、側アーム 26 上に配置された案内バー 27 によって軸線方向において留められている。割れノーズ 28 が、これら案内バー 27 の各々から、内部に向けて延びており、曲げ及び締め付け要素 30 の対応の凹所 36 内に突き出ている。